

創

—第20回—

「湯く園地」で手にしたものは 【後編】

湯く園地計画自体を企画構想する能力、また実現に向けて多くの人を巻き込んでいく力など、今までの行政では求められなかったものが必要な時代です。職員も素晴らしい経験の場になったと思いますし、民間の皆さんにとっても新たなビジネスチャンスに繋がります。しかし、実はここからが本当の挑戦です。これが『別府だからこそできた』



別府市長
長野 恭紘

ことではなく、『私のまちでもできる』ことにしなくてはなりません。

今回の湯く園地実現は、まさに別府らしさを生かした挑戦でしたが、他のまちでも別府と同じように独自の『らしさ』を掛け合わせれば面白いことができる、とならなければ自己満足に終わってしまいます。そのためには別府で起きた成功までのプロセスを形に残したい！と考えていて、実はすでにその作業に取り掛かっています。全国で同じように汗をかき、まちづくりを進める仲間達にとって少しでも励みになり、参考にさせていただけるようなものにしたと思います。

さて、湯く園地計画の『次』ですが、単発事業に終わるものではなく、別府の宝や特色を生かし、毎年回を重ねることに大きく育っていく、そんな『次』にしたいと思います。発表できるまで少しお待ちください。いずれにしても：お楽しみに（笑）。



トピックス通信



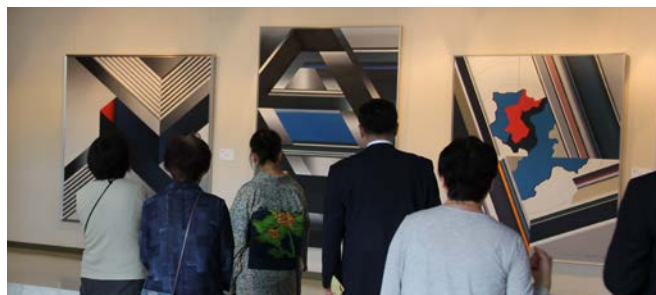
遍上人への感謝—第58回鉄輪湯あみ祭りが、9月21日から23日までの3日間、温泉山永福寺周辺で開催されました。祭りの目玉はやはり稚児行列。かわいらしい稚児31人が鉄輪地区を練り歩く姿や一遍上人像にお湯をかける姿に、家族や観光客も思わず笑みがこぼれていました。



秋の奥別府、ランナー集う—10月8日、志高湖・神楽女湖周辺で第30回別府湯けむり健康マラソン大会が開催されました。4、8、16キロメートルの3コースに県内外から1,319人が参加。目標タイムに挑む人、景色を満喫しながら走る人、それぞれのマラソンを楽しんでいました。



高齢者のバス回数券を半額で販売—70歳以上の市民の皆さんの移動支援や健康増進を目的とした「ひとまもり・おでかけ支援事業」を試験的にスタートしました。事業実施期間中の利用状況などを検証して、さらに市民の皆さんに寄り添った政策へとつなげていきます。



美術館装い新たに—熊本地震の影響で休館していた別府市美術館が10月12日に移転オープンしました。1950年開館当初からの所蔵品に加え、郷土作家の作品を数多く展示しています。市民の皆さんが芸術に触れ、楽しめるスペースを目指します。